

ホーム名:グループホーム はるすのお家・阪南(すずらん)					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでも見えるように掲示し、職員間で共有し理念の実践に繋がっている。	理念の掲示板は玄関入口と各ユニットの壁に貼付されており職員一同の支援方針として謳われている。理念に基づく地域特性を考慮した業務運営計画等は、検討されようとしている。	引き続き、理念に基づく地域特性を考慮した業務運営計画等を検討されていかれることに期待をしたい。さらなる地域密着型サービスの展開に期待をしたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し関わりを大切にしているが、廃品回収や清掃等の参加のみになっている。今年度は秋祭りの開催でやぐらを楽しむことが出来た。	Withコロナで、地域のイベントへの本格的な参加はこれからとなる中で、地域に開かれた事業所になるよう、地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の相談など検討しているが、地域への働きかけは包括や行政と協力し対応するようにしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面開催が多くなっているが、様々な意見を検討し日々のケア等に活かしている	運営推進会議には市職員や地域包括支援センター、自治会、入居者家族も参加しており、ホームの状況を把握のうえ、意見をもらっている。議事録も適切に整備され、家族への送付も行っている。	運営に参加していない職員にも議事録を共有し、職員の意識向上につなげていただきたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	ホーム長が中心となり、担当の方と顔の見える関係性が出来ている。また、困難事例等の相談も出来ている。	市の介護保険課や福祉事務所とは日頃から適切に連携が取れており、運営推進会議でも直接的に関わりを持つことができています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止委員会の設置をし、定期的に会議を行い、職員で理解を深めている	研修を積極的に実施し、権利擁護への学びを深め、身体拘束ゼロを保っている。身体拘束委員会も3ヶ月に1度、適切に実施され、議事録も整備・共有されている。	運営推進会議の招集機会を活用し、2ヶ月に1度は身体拘束検討委員会に地域包括支援センターの同席を求めているとのこと。是非実現させ、メリハリのある委員会を目指していただきたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所などでの虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の起こり得る要因等を理解し、職員一人ひとりの意識向上に努めている		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方がいる為、理解を深める事が出来ている。また、必要な時も適切に活用出来るようにしている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等は十分な時間を取り、疑問点などもスムーズに解決できるよう努めている。		
10	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望や意見など日頃からのコミュニケーションを大切にしている コロナ禍により、ホーム内の生活が見えにくくなっているのも課題と感じている。	家族の訪問時には意見や要望などを聞き職員の連絡ノートに記入して職員間で共有を図っている。家族とショートメールで気軽にやり取りできる状況の中、管理者は採択できる要素をよく考慮し、できる限り家族の希望に寄り添えるように努めている。	
11	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	必要時には、職員の意見を聞ける体制を整えている 連絡ノートの活用も出来、意見も言いやすい環境となっている。	申し送りや提案事項など、ノートに記入して、職員間の連携や意見交換に役立てている。日頃から、職員同士で意見を言い合える環境を構築している。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より関係性を大切にし、契約更新時の面談や年に1度の人事考課時などに見直しも行うようにしている		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外部の研修の充実を目指しているが、外部研修の参加は出来ない。座学だけでなく技術の実践研修等すすめている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域包括支援センターを中心に働きかけがあるが、なかなか参加できていない。		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の関わりには気を配り、家族様からの情報収集だけでなく、言動等見守りながら何を望まれているか、安心できるよう関わりを大切にしている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様との関係作りにも気を配り、対話を大切にし気持ちに寄り添うよう努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の状態を理解し、生活の様子や要望等を見極め、必要なサービスを提供出来るようにしている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様に信頼して頂けるような声掛けやケアを行うよう心掛け、共に過ごす時間も大切にしている。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も家族様との関わりは大切に考え、ホーム内での面会を行っていないが、日々の様子もこまめに報告出来るようにしている。		
20	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	疎遠になってしまうことが多いが、関係の継続がしてもらえるようご家族様にもご協力頂いている。	地域に密着した事業所として、気軽に立ち寄れる環境づくりを心掛けている。コロナ禍で中断しているが、入居者のお友達が面会に来られることも多くなり、挨拶や声掛けも徹底している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員も交えて一緒に取り組む中で、入居者様同士がなじみの関係となる環境作りを行っている		
22	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りまで行うことが多くその後の関わりは少ないが、家族様の希望があれば答えられるよう努めたいと思っています。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様からの情報収集も大切にしている。意思疎通が困難な時も本人本位となるよう努めている。	一人ひとり考え方が違うことを理解し、また家族からも情報収集し、今までの生活やかかわりを大切にして本人の好き嫌いを見極めるようにしている。言葉だけでなく表情を読み取るようにしている。気づいたことは連絡ノートに記載し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ご本人様やご家族様からの情報収集を大切に、これからの生活にもつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、一人ひとりをしっかりと観察し、情報共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーを中心に一人ひとりの課題や生活の意向をくみ取りケアプランへとつなげている。職員間での共有も大切にしている。	モニタリングを毎月実施し、ケアプランに反映させているだけでなく、ケアプランは、名前を隠していても誰のプランかわかるほど個性が表現できている。医療的処置についても連絡ノートに詳細に記入し、情報共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子などは、個人支援記録や連絡ノートを活用し情報共有しケアプランにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内で出来ることは、臨機応変に対応できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム内での生活となっており、認知症カフェや買い物同行等活用出来ていない		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に添えるように、入居前からのかかりつけ医の継続も可能であり、希望があれば連携先の医院での医療も受ける事が出来ています。	ホームの協力医である「さくらクリニック」から月2回の往診を受けているが、家族が入所前からのかかりつけ医を主治医として要望している場合は、家族の協力を得ながら希望に寄り添い、臨機応変に対応している。	

31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	訪問看護ステーションとの関係性も大切にし、週1回の訪問時だけでなく、必要時には、相談も出来る体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は情報連携シートの活用をし、また医療機関の担当者との情報共有も大切にしている また市内の医療機関は日頃より、もしもに備え関係作りを心がけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より、看取り体制について説明をし、状態変化があればその都度説明し、希望に添えるよう対応している。 必要時には家族診に出席し共有しています。	重度化した場合の対応や終末期の看取りについて、利用者や家族の希望に基づいたケアが実践できている。 主治医や訪問看護とも連携が取れ、より幅広い対応を心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修を行い適切に対応出来るように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な災害を想定し研修や避難訓練を行い職員の意識は高まっているが、地域への働きかけはすすんでいない。	年2回、昼夜の火災を想定した総合訓練を消防署員の立ち合いのもと行っている。 備蓄も適切である。	夜間の災害発生の際に自分が何をすべきなのかを職員それぞれが認識しておくことが重要だと思われる。 また、訓練時には前もって地域に声がけをし、地域を積極的に巻き込み、協力体制の構築に期待したい。

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重 とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇り やプライバシーを損ねない言葉 かけや対応をしている	敬う気持ちを忘れずに、場にあつた 対応を心がけている。定期的な研 修を行い職員への意識づけもして いる。	入居者との言葉遣いにおいて、親 しみやすさと馴れ馴れしさとの違 いを理解し、場面ごとの対応のメ リハリをつけることを職員全員が 常に意識するよう指導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己 決定の支援 日常生活の中で本人が思いや 希望を表したり、自己決定でき るように働きかけている	選択が出来自己決定を促すような 声掛けをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先 するのではなく、一人ひとりの ペースを大切にし、その日をど のように過ごしたいか、希望に そって支援している	共同生活内での制限もあるが、一 人ひとりのペースに合わせた生活 となるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの 支援 その人らしい身だしなみやお しゃれができるように支援してい る	希望や自身で選択出来るように支 援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる 支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活 かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをして いる	準備や片づけも共に行うことをす すすめている メニュー決定も好みや 季節感を考え共に決めることもして いる	家庭的な手作り食で、メニューは 豊富で季節の料理、行事食にも力 を入れている。 食べたいメニューを利用者と話し 合うことでコミュニケーションも 取れ、利用者は自分の役割とし て、片付けを積極的に手伝ってい る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支 援 食べる量や栄養バランス、水 分量が一日を通じて確保できる よう、一人ひとりの状態や力、集 会に応じた支援をしている	食事・水分量共に一人ひとりに合 わせた量の把握している 必要に 応じて栄養補助飲料の活用もして いる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じな いよう、毎食後、一人ひとりの口 腔状態や本人の力に応じた口 腔ケアをしている	歯科医からの助言も含めて、自身 で出来ることは継続出来るようケア へ繋げている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を 減らし、一人ひとりの力や排泄 パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向 けた支援を行っている。	1人ひとりの状態に合わせて出来 る限り自立を促せるように声掛けを 行っている。	見守りにより利用者ごとに時間管 理を行い、できる限り自立を促せる よう、1人1人に細やかな支援 を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響 を理解し、飲食物の工夫や 運動への働きかけ等、個々 に応じた予防に取り組んでい る	食事・水分はもちろんですが、運動 や体操を取り入れスムーズな排便 となるようアプローチしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる 支援 一人ひとりの希望やタイミング に合わせて入浴を楽しめるよう に、職員の都合で曜日や時間帯 を決めてしまわずに、個々に応 じた入浴の支援をしている	共同生活なので制限もあるが、希望 に沿った入浴支援が出来るよう にしている	入浴が困難な状態の方や拒まれる 方には清拭を行う事で清潔さを維持 している。 週2～3回、ゆっくり時間をかけ て湯につかってもらう事により入 浴の楽しさを味わってもらうよう にしている。	

46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝介助の際にも声掛け等気を配り環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報をすぐに確認出来るようにしており、服薬の扱いには細心の注意をしケアへつなげている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活家事など、得意なことや役割や達成感を感じてもらえるように声掛けをしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	庭先の花を楽しめるよう工夫し、水やり等、庭先で過ごす時間を作り季節を感じてもらえるようにしている。家族との外出は控えて頂いている	気候を見ながら、近所を散歩をしたり、駐車場や玄関前で外気浴をしたりして、短時間でも外の空気に触れ、季節を感じられるように気を配っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は難しいが、希望があれば買い物支援などを行っている 買い物レシートを渡し、家計簿を付けられる方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	年賀状や電話等希望に応じて対応している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険や不快とならないように配置に気を配り、また生活感・季節感も大切にしている	共有スペースや廊下には、季節を感じられる装飾をし、家庭的で快適な空間づくりに配慮している。換気にも十分に注意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになったり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングではみなが集まる空間となっており、廊下のベンチなども活用している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内が過ごしやすい空間となるよう、使い慣れた物を持ってきてもらえるように協力頂いている。	利用者の居室は、希望があれば家具などの使い慣れたものの持ち込みを可能としている。常に気持ちよく利用者が生活できるよう、清掃にも気を配っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活動線が危険とならないように配慮し、「トイレ・お風呂」等わかりやすく掲示している。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができて いる (参考項目: 9,10,19)	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目: 9,10,19)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの 拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えて いる (参考項目: 4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働けている (参考項目: 11,12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思 う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足して いると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない